

金光光雄さん、お久しぶり

みんつど

第二十二号

編集 天地 成行

提供

村岡鍼灸治療院
阿東つばめ農園 俳句雑誌「山彦」レストハウスたんぽぽ
こころてれび ひだまりの会 株式会社くるとん



第8回 絵画展 岩徳光会
(岩師、徳永、金光)
場所:長府図書館1階ロビー
連絡先☎:090-2008-8769
いわききすぐる

9月

日時:2021年8月28日(土)から9月22日(水)
9:30~19:00(土日18:00まで)
休館日:月曜日と祝日
内容:9月生まれの有名人&
東京五輪メダリストの似顔絵

新型コロナウイルス感染対策により
9月14日からの予定に変更しているそうです

みなさん、九月になりました。お元氣ですか？ 天地もポチポチ生きております。さて、久しぶりに金光光雄さんからコメントが届きましたのでご紹介します。

「こんにちは。金光光雄です。三度目の入院後か

ら、薬がドカンと増えてしまい、その影響もあるのか、思考停止になる時が多々あります。生活保護を受けて、2ヶ月になります。仕事を求めてハローワーク通い。障害者窓口で、とある病院の洗い場、洗浄係を募集しているのを見つけ、早速連絡し、面接の予約を取り付けました。受ければ、十月一日から仕事であり、生活保護の生活は終わりになります。病氣はメンタル面、精神的なもので、体力に自信がある僕は、やはり、働いて何かしらの社会貢献をしたいと思います。そして、精神科の病院に通院しますが、どうか、飲み薬は最終的には0になり、筋肉注射だけになれば」と、思う今日この頃です」

頑張っていますね。金光さんは相変わらずアグ

レッシュに生活されています。イラスト展も仕事探しも上手くいくことを願います。

さて前号で突如打ち切った小説「ベリーベリーナイス」でしたが、惜しむ声が届き、最終話を二、三面に特集させていただきます！ 完結編です。どうぞお待ちになっただ方ご覧ください。そうでない方には微妙な今号かもしれません。

小説はこれまで少し書きましたが、やはり完結させないと上達がないので、これはこれでいい経験になりました。今後も発表することがあるかと思っておりますのでよろしくお願いたします。

最近私は定期的にマッサージに通っています。足つぼと全身のセットで毎回体がリセットされます。四十代後半なので体のケアが大切ですね。

短編小説 「ベリーベリーナイス」 完結編！

これまでのあらすじ たかし、あゆむ、とおるの高校同級生は三人で過疎問題に取り組みたいと誓いあいそれぞれの道へ歩んだ。たかしは過疎研究から、東京の新聞社でアルバイト。あゆむは大学中退し大阪で飲み屋の仕事をした。とおるは、医者になり実家近くで精神科のクリニックを始めた。三人はそれぞれの生き方をしていた。さて、再会するのか、夢は諦めたのか？ 最終回スタート。

平成16年。

たかしの浅草の会社が倒産した。部数減による経営不振だった。バイト生活も七年目に入っていて、来月には正社員登用試験を控えていた。このころになるとほぼ正社員

に近いほどに手際よく働いていた。いきなりの倒産。息をつく暇もないほど熱中していた仕事だった。彼は半年、浅草のポロアパートでぼーっと暮らした。次の仕事も探す気持になれなかった。何か焦燥感に襲われて、

燃え尽きた感じだった。もしくは都会生活に疲れたことによりやく気がついたのかもしれない。家に引きこもっていた、たかしの心配して父親が上京してきて帰郷の説得をした。たかしは受け入れた。

◇

たかしは久しぶりの帰郷でゆっくり静養した。定年退職した父親に連れられ、釣りや田舎の直売所めぐりのドライブをした。そしてたまに散歩に出かけるようになった。昔の彼女と話した公園にも行った。

ある日、実家の近くを散歩していると、とおるのクリニックを発見した。実家の外科とは違うが、精神科であった。「あい

つ今頃……」たかしの足は自然にクリニックに近づいた。

◇

「都会にいて疲れたんだよ。ここもつと自然の多い所で静養したらそのうち治るさ」とおるはたかしにアドバイスをした。立派な医者姿が今の自分と比較させた。たかしが自分がダメ人間だと感じる。

「そういえば、ESSの顧問のマサミ先生と今度一杯飲むことにしているから来ないか？」とおるはにこやかに言った。ほかにすることもない、たかしは「うん」と応じた。居酒屋「呑みねえ」。

「とおる君は立派な医者になったねえ。実家を継がなかったのは意外だったけど」マサミ先生は枝豆をつまみながらほめた。えっと、たかし君は今

何をしているの？」と言ううと、たかしは無言でグラスのビールに手をやった。

「何もやってないっす」というのが精いっぱいだった。

とおるが、「たかしはいま疲れて地元で静養中なんです。ここよりもつと田舎の方が療養にはいいと思うんですけど……」と助け舟を出す。

「ならワシの島の荒地があるんだが、困っているんだ。タダで貸すから何かやってみるかい？」

「おー、そういえば昔、あゆむと三人で過疎問題に取り組みたいね、と話していたよね。俺も手伝える日があれば行くからやってみないか？」とおるが忌憚なく言う。

いきなりの展開にたかしは驚くも気が乗らない。そんなに面倒なことをする気にはならなかった。「まあ少し考えてみます」とこたえ散会になった。たかしは「あゆむはいま何をしているんだろうか」と案じた。

◇

「久しぶりやのおく変わらん、この町は」あゆむは戻ってきた。南谷工業をクビになってからは大阪を離れて、全国津々浦々を転々とその日暮らして働き酒を飲んで暮らしていた。

それから数年経って、地元近くに来たので寄ったというわけ。この日も朝からカップ酒を飲んでた。この感じで母親に会おうという。母には顔を見せておきたいという気持ちと、今の墮落した姿のアンバランスさに笑えたあゆむだった。

バスに乗り、ふと通り道の高校に寄りたくなつて、B高校前で下車した。校門を見て、堀沿いに歩く。この向こうがESS

の部室があつた3号館。「タリタリラーン」とおるのギターの音が脳裏に聞こえた。懐かしい、あいつら何をしているのかなあ？ そして実家に帰って、母に酒臭さで文句を言われるのも無視して、電話帳を調べて、とおるの実家に電話した。(三面に続く)



完結、ありがとうございますございました

次作をお楽しみに

◇

卒業して何年が経った



だろう。この日、三人は再集結した。とおるとあゆむはうれしそうだったが、たかしはうかぬまま

だ。とおるの号令で三人で無医村島の平木島へ向かった。島東部のマサミ先生の所有する3ヘクタールの広大な荒地に車を走らせた。三人はその荒れ姿にあぜんとした。

「これはすごいな」酒臭いあゆむが放つ息がぷーんとその辺を漂う。

「面白いじゃないか。俺たちで開拓しようぜ！」とおるが元氣よくいう。

たかしは黙ったままだった。ただ、たかしには潮風に運ばれる新鮮な空気が少し気分をやわらげた。

3人は通いで二年をかけて何とか土地を作り直し、作物が栽培できる環境を整えた。

「さて何をつくるか」あゆむの息は少し酒臭さが抜けていた。

「まず米だろ。それと果

物がいいかな」とおるは自信満々だ。

「ミカンは需要が落ちてるから別がいいな。ブルーベリーなんてどうだい？

目にいい成分があるからこれからだと思う」たかしは土地になじみはじめ少しずつ元氣な感じになった。

「じゃあブルーベリー」二人が声をそろえた。

米はあぜにハーブを植

えて、害虫の侵入とハーブ自体の収穫とで一石二鳥の栽培をはじめることになった。ブルーベリー

も島人が珍しがり、米と併せて農業改良普及員にいろいろ教わった。これは大助かりの3人だった。

ただブルーベリーはあまりなじみがなく、栽培に苦勞して初年度は散々な結果になった。たかしも

夢中に汗を流した。そして少しずつ体調もよくなっていった。とおるはそれをみて、うれしそうだった。

◇

ブルーベリーがうまく軌道に乗った2年目から新たな悩みができた。生果では需要が少ないために加工をしたかったが、加工場を作るにはまだまだな資金力だ。

思わぬ助け舟がきた。

マサミ先生の友人で名古屋で通信販売をしている社長が、健康食品に進出したいという。ただいきなり経営的に大冒険はできない。テスト的に調達してみたいと申し出てきた。ジュースにして、健康成分のアントシアニン

で売り出したいとのことだった。これで悩みも解消した。無農薬ハーブ米もとおるの作ったHPで

直接販売で予約がきている。

◇

平成が令和になった。2019年の夏。潮風を浴びながら3人で海岸の砂浜に寝転んだ。とおるが「俺、この島で医者やるわ」二人は驚く。

「いまのところはどうするんだ？」すっかり酒の抜けたあゆむ。

「ここが気に入ったんだ、なああかし？」

「ああ、とおるいいねそれ」二人は笑う。つられてあゆむも。

「なんか俺たちナイスだな」

「ベリーナイスだろ」

「ベリーも作っているからベリーベリーナイスだな」

あっはっは。そうだな。

3人で夕暮れの空に向かっていつまでも笑いあっていた。

完

※内容はフィクションです。

クスッと笑える精神病闘病記 「わたしは山頭火!?!」



みなさん、スマホやパソコンのネットで買い物することはある時代ですよ。そんなある当事者のTさんに悲劇が訪れました。みなさんも気をつけてお買い物するようにしましょうね! (天地)
以下、Tさんの悲劇を語ってもらいます。

ネット通販ポチッと病に注意

バイクヘルメット6個

当事者読者の悲劇

アマゾンで調子にのってポチッとしたらバイクのヘルメットが4個と自転車のヘルメット買ってしまいました泣。しばらくアマゾン、ヤフオク、他通販サイトは見ないようにします。バイクのヘルメットが6個になります笑。アマゾンポチッと病です。4900円の本も本屋では高くて買えないけどアマゾンでポチッとしたら不思議な事に買えます。通帳はいくつかに分けて「ポチッと専用口座」があります。

「わたしは山頭火!?!」あらすじ
天地成行は、いろいろな苦悩の末に二十八歳で統合失調症にかかる。障害年金受給の際に、鬱々とした十年のことを思い出し、そうに転じる。数々の奇行の末に、ついに精神科に入院する。そんな中で、漂白の俳人種田山頭火に出合う! リハビリに天地は自由律俳句の道を選ぶ……。

発見、共感、解放 旧友からの感想

統合失調症。仕事柄よく耳にする病名だけど漠然としか掴めていなかった。彼はよく知る親友だ。彼はよく知る親友だ。いや、統合失調症をよく知らない時点で「よく知る」は違うのか。でも、彼とは大学時代によく学び、よく飲んだ仲だった。発病後の彼と再会して、話を聴いて、彼のきつい気持ちを受け止めるも、なかなか病気への理解は深まらなかった。

しかし、この著書を読むと、彼のリアルな病状を知ることが出来る。ここに書かれていることは全て本当に起こったことだ。意外にも本人から直接聴くよりも、著書を読んだ方が彼に何があったのかよく伝わってきた。さらに、昔から人思いでいつも笑顔をくれる彼だったからこそ、こんなに解りやすく病気が伝わってきたのだと思う。まさに、この著書は私にとって「発見」だった。

また、私にも周りの人の目が気になり、自分のことを噂されているような気持ちになったことがある。仕事等で精神的に追い詰められた時だ。しかし、この著書を読んで、随分気持ちが楽になった。心が弱っている時は、無理をしなくていいと自分

に言い聞かせられるようになった。それは、統合失調症である彼に「共感」したからだ。

そして、彼の自由律俳句! 楽しい気持ちになる。自分でも詠めるかもって思ってしまう。彼は言葉をよく知っているし、巧みに使うことができる。

そんな彼の句に触発されて素直な気持ちを言葉遊びのような感覚で表現しなくなる。心が言葉の力を借りて行き着いたところに自由律俳句があり、それは、つまり自分を「解放」する感じだろう。

最後に、この著書のおかげで、私は病気のことを少し、彼のことをさらに知ることができた。だから、もっとたくさんの人に読んで欲しい。私が「発見」、「共感」、そして、「解放」をもらえたように、あなたもきつ

と何かもらえるはずだから。(北九州市・Kさん)

◇
「わたしは山頭火!?!」は、株式会社くるとんのホームページや電話0827(81)1551、アマゾンでも絶賛好評販売中。一冊、税込み1100円です。(天地より)

編集後記

アマ料理

さて、今号はいかがだったでしょうか? 定期的に発行するのなかなか制作の「産みの苦しみ」がありますね……。

日曜日は我が家は母の休日です。料理を始めています。先週からです(笑)。キャベツ中心に長ネギや玉ねぎ、エノキタケと肉を豚肉やベーコンにして何と三日連続で炒めてみました。初日は、味付けの素を買ってきて混ぜ、二日目はゴマみそ、三日目は豆板醤と言った具合にしてみました。飽きずにおいしかったです。